

新庁舎のあり方について

令和4年8月10日

交野市議会 総務文教常任委員会
重点テーマ所管事務調査報告

調査の概要

テーマ：新庁舎のあり方について

期 間：令和3年9月～令和4年8月

委員会メンバー：

役 職	氏 名
委員長	久保田 哲
副委員長	臼口 誠二
委 員	山本 景
	松村 紘子
	岡田 伴昌
	藤田 茉里
	三浦 美代子
	中谷 政人

テーマ選定の背景

- ・ 令和2年3月に庁舎整備基本構想を策定



- ・ 同年9月議会では、コロナ禍や事業費等の課題に対応するため**再考する**とされた

- ・ その後、議長団への定期的な報告を求めてきたが、具体的な動きが見えない状況だった
- ・ 議会として、結果だけでなく過程も十分に検証し、監視機能を果たす必要がある

➡ 「新庁舎のあり方について」をテーマに選定

交野市の現状

- ・ 基本理念 「市民の役に立つところであり、防災マネジメントの拠点であること」

- ・ 6つの候補地を検討

いきいきランド交野	ゆうゆうセンター	市役所本館・別館
青年の家	第一中学校	長宝寺小学校 (現・交野みらい小学校)

※岩船小学校の敷地は検討対象外とされた

- ・ 現庁舎（本館）の耐震診断を実施
 - 現機能に大きな支障をきたさずに、耐震補強が可能
 - ただし、併せて長寿命化補修が必要であったり、仮庁舎の検討が必要であったりと、課題はある

交野市の現状

◆ 令和3年度のまとめ

基本理念の実現を目指し、次の4つの案を検討。

※長宝寺小学校（現・交野みらい小学校）は候補地から除外された

※第一中学校は候補地から除外されたわけではない

	新庁舎整備案①・②		既存本館改修案①・②	
いきいきランド	新庁舎を整備		現状機能維持	
ゆうゆうセンター	現状機能維持	増改築し、 窓口部署を集約	現状機能維持	増改築し、 窓口部署を集約
現位置	本館・別館・第2別館を解体		本館を耐震長寿命化	
青年の家	耐震長寿命化 (教育委員会を分離)		耐震長寿命化 (現状機能維持)	耐震長寿命化 (教育委員会を分離)
事業期間	6.5年	6.5年	4.5年	7.5年
総事業費	約8.6億円	約9.8億円	約2.5億円	約5.7億円

市民の利便性・防災機能・将来性などについても併せて検討



令和3年12月21日

講演会

講演会 (R3.12.21)

- 大阪大学大学院 工学研究科 若本 和仁 准教授による講演会を実施した
- 庁舎整備にあたって、意思決定や評価のポイント（視点）を学ぶことを目的とした
- 評価シートの記入や、委員間の意見交換など受け身ではない双方向型の講演会として開催した



講演会 (R3.12.21)

複雑な視点 (要素) から最適解を！

解決策はシンプルに！ ⇔ 一方で、課題は単純化し過ぎない

環境性能

建物の寿命

コスト

災害時の
位置づけ

市役所の役割

セキュリティ

バリアフリー

地域の
シンボル

働きやすさ

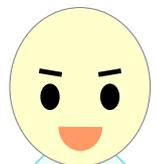
地域文化との
関わり

産業への貢献

講演会 (R3.12.21)

試みとして、

未来 (40年後) の視点に立ってみると…?



委員

人口減少社会において大きな庁舎は必要なのか？
縦に長いコンパクトな庁舎が良いと思う

交通アクセスの良さも重要である

防災・産業・交流の3つの観点が大事！
産業の拠点にできれば、現在も、将来においてもメリットがある



委員



令和4年3月24日

意見交換会



意見交換会（R4.3.24）

6つの基本方針

市民を支える
安心・安全な庁舎

人にやさしく
誰もが使いやすい庁舎

働きやすい庁舎

市民に親しまれ
憩いを育む庁舎

環境にやさしく
まちと調和した庁舎

経済性に
配慮した庁舎

⇒ 交野市の若手職員を対象に意見交換会を実施

意見交換会（R4.3.24）

若手ならではの観点から意見を聞いた

<福利厚生面>



委員

トイレは市民と職員で分けた方が良い
特に市民が使うトイレで職員が歯磨きをしているのは印象が良くない

食事・休憩スペースの確保が必要
空いている時間は会議室として有効活用を！
コンビニや保育園など近隣環境も働きやすさに影響する



委員

意見交換会（R4.3.24）

若手ならではの観点から意見を聞いた

< 執務環境面 >

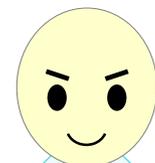


委員

収納スペースや通路が狭い
DXも大事だが、最低限のスペース確保を！
書庫は地下にあるが、水害や火災に対応
できるのだろうか？

会議室にはプライバシーの確保が必要

庁舎機能を集約できれば、職員の移動時間も
減り、働きやすくなると思う



委員



令和4年5月12日

佐賀県 武雄市 視察

武雄市 視察 (R4.5.12)

年・月	庁舎整備の経過
H23. 3	東日本大震災 → 庁舎耐震性の大切さを再認識
H24. 2	庁内での検討を開始
H24. 7	庁舎問題検討特別委員会 を設置 → 庁舎の方向性（補強・現地建替え・移転建替え）について検討 ⇒ のちに、移転建替えで合意
H26. 9	庁舎建設等特別委員会 を設置 → 新庁舎の内容について検討
H27. 5	基本計画を策定
H28. 11	建設工事に着手
H30. 5	新庁舎が開庁

武雄市 視察 (R4.5.12)

- ホールやトレインビューテラスを備えた
市民の集う庁舎を目指した
- 民間委託によるワンストップサービス窓口を設置した
- 健康器具や標識（歩幅・消費カロリー等）を設置し、
健康づくりを意識した機能を持たせている
- 防災拠点としての機能も充実させた

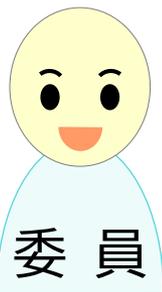


武雄市 視察 (R4.5.12)

- ・ 農協会館の用地を買収し移転した
 - ・ 合併特例債を活用、さらに新幹線開通による用地買収での収益もあった
 - ・ 設計面でもコストダウンを図った
- 総事業費42億円



武雄市 視察 (R4.5.12)

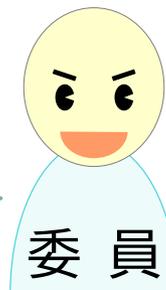


ワンストップ窓口は非常に市民への利便性が高いと感じた

窓口はカウンター型ではなくテーブル型だった市民に寄り添っている印象を受け一方で、執務スペースと接客スペースを分ける役割も果たしているのだと思う

ホールやカフェ、キッズスペースなどを設け、市民の居場所となる工夫をされている

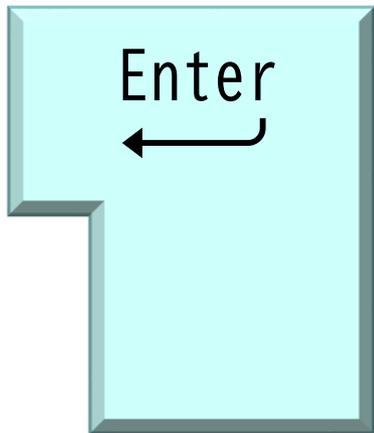
「理想的」な庁舎だと感じた





令和4年5月13日

福岡県 大牟田市 視察



大牟田市 視察 (R4.5.13)

年 度	庁舎整備の経過・今後のスケジュール
H28	庁舎の耐震診断調査と現況調査を実施
H29	改修・建替え等のケース別に事業シミュレーションを実施
H30	市民アンケートや意見交換会を実施 庁舎整備検討委員会（附属機関）を設置し、答申を受けた 「庁舎整備に関する基本方針（案）」を策定 →次年度予算の庁舎整備関連部分が議会にて削除（修正可決）された
H31/R1	改めて市民アンケートや意見交換会を実施
R2～R3	公民連携による庁舎整備の実現可能性を調査 今後の方向性を改めて取りまとめた
R5	本館の取扱いを決定
～R9	基本方針・基本構想・基本計画・基本設計・実施設計を順次行う
R10	新庁舎着工
～R15	新庁舎供用開始（本館は民間活用するのであれば改修）

大牟田市 視察 (R4.5.13)

- ・ 現庁舎は築年数や耐震性の異なる複数の建物で構成されている
- ・ また、本館は登録有形文化財である



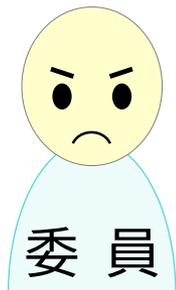
- ・ 本館を含めた建替えの方向性を示したところ、市民への十分な説明や意見の反映がなされていないとして、H31年度の庁舎整備関連予算が削除（修正可決）された。
- ・ その後、2回目の市民アンケートを実施するなど、再検討を行っている。

大牟田市 視察 (R4.5.13)

- 市の負担を抑えながら本館を保存する方法として、民間事業者による本館の利活用を検討している
- 耐震性が最も低かった塔屋には、補強ブレースをすでに入れている
- 議会では特別委員会を設置せず、常任委員会において協議している

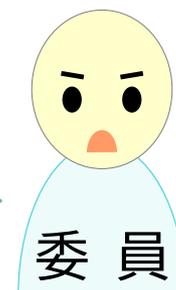


大牟田市 視察 (R4.5.13)



新庁舎整備に時間がかかる場合、当面の耐震工事が必要であると感じた

文化財でもある本館の方向性を決めるに当たって、市民アンケートを取られたのは良い取組みだと思うが、アンケートでは意見が割れており、今後どう決断されるかが困難かつ重要だと思う





令和4年7月6日

大阪府 和泉市 視察

和泉市 視察 (R4.7.6)

年・月	庁舎整備の経過
H24.11	現在地での建替えで検討スタート
H25. 2	耐震改修で再検討
H27. 2	建替え（現在地 or 移転）で再検討
H27. 9	現在地での建替えとの方向性を議会に報告
//	議員提案による住民投票条例が可決
H27.11	住民投票を実施 （投票率48.8%） →移転が多数となったが、僅差であるため現在地での建替えを基本方針とした

庁舎移転には議会の特別多数議決（2/3以上）が必要であるが、賛成14：反対8で**否決**となった

和泉市 視察 (R4.7.6)

年・月	庁舎整備の経過
H29. 4 ~6	基本計画市民ワークショップを6回開催
H30. 1	基本計画を策定
H30. 3	業者の辞退により基本設計のプロポーザルを中止
H30. 5	要件等を見直して、再び基本設計事業者を募集 → 事業者決定
H31. 4	工事請負契約の締結が議会で可決 (事業者選定の問題点を指摘する声もあったが、賛成多数で可決)
R 3. 5	新庁舎開庁 (附属施設は現在も工事中)

和泉市 視察 (R4.7.6)

- ・生涯学習部のコミュニティセンターが隣接するため、庁舎には市民利用スペースを設けていない
- ・耐震性能のほか防災拠点としての機能を持つ
(7日間運転可能な自家発電機 + 4日分の雑用水槽・汚水槽)
- ・職員1人あたりの面積を約1.3倍に増やした
(特に会議室や更衣室の面積が充実)

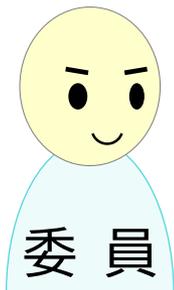


和泉市 視察 (R4.7.6)

- ・ 市町村役場機能緊急保全事業債を活用した
- ・ 土地は一部のみ借地解消している
(駐車場部分は未解消 → 年間7,370万円の賃料)
- ・ 議会では庁舎整備特別委員会
において協議をした

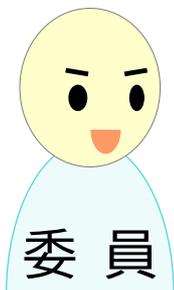


和泉市 視察 (R4.7.6)



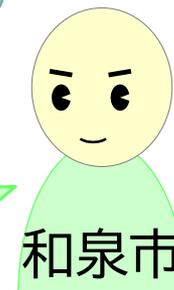
Q : 耐震改修と建替えの両方を検討された経緯があるが、どのような議論があったのか？

A : 改修により耐震性能は確保できるものの、21億円かかり、一方で執務スペースの狭さなど根本的な問題解決ができないため、建替えとした



Q : 駐車場は十分に確保できているのか？

A : 市役所に駐車して駅に行く人がいるため、今後は有料化して対応する





ま と め

市への提言

<手法面>

補助金の活用や発注の方法を含め、
市民の理解が得られるものであるべき



説明会などにより、
市民の理解を得ながら進めることを要望する

市への提言

<ハード面>

- ・ 災害時の拠点となる機能
- ・ 市民の利便性の向上

⇒奇しくも、市の基本理念と一致

重要性を
再確認



具体的な議論には、
予算規模を示していただく必要がある

議会として

重要な事業であり、
全議員で積極的に議論する場が必要！

→ 特別委員会の設置など、
協議の場を整えることが必要ではないか!?